

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

(平成28年度)

愛知産業大学三河高等学校
通信制課程 単位制

目 次

I 学校概要

II 教育目標

- (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神
- (2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育目標
- (3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針

III 重点目標の達成及び改善方策

- (1) 学習指導
- (2) 生活指導
- (3) 進路指導
- (4) 生徒相談
- (5) 生徒募集
- (6) 総 務
- (7) 校 務
- (8) 事 務

IV 本年度の具体的な取り組み

V 来年度の具体的な取り組み予定

VI 重点目標の達成に対する考察

VII 生徒アンケート結果の総合考察

VIII 保護者アンケート結果の総合考察

IX 今後の方向性

X 学校関係者評価委員会報告書(全日制・通信制課程単位制合同)

I 学校の概要

(1) 学校名

愛知産業大学三河高等学校

(2) 課程

通信制課程

(3) 所在地

〒444-3523

愛知県岡崎市藤川町西川向1-20

TEL：0564-48-5230 FAX：0564-48-8775

ホームページ：<http://asu-mikawa-tani.jp>

(4) 沿革

昭和58年 三河高等学校の創立が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の10に置く。

昭和58年 三河高等学校を開設。全日制課程の普通科と電気科を置く。

昭和60年 三河高等学校の全日制課程に情報処理科と通信制課程を設置する。

平成 3年 愛知産業大学の設置が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の5に置く。

平成 7年 三河高等学校の校名を愛知産業大学三河高等学校に改称する。

平成10年 愛知産業大学三河高等学校に単位制（普通科）を設置する。

平成16年 愛知産業大学三河高等学校の単位制新校舎が完成。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校（専門学校高等課程）と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通科・商業科があり技能連携を結ぶことによって専門学校の学修を本校の単位として認定することが出来る。本校単位制には、2つのコース（午前コース・午後コース）を設けている。

(6) 技能連携校

名古屋情報専門学校 高等課程

あいちビジネス専門学校 高等課程

西尾高等家政専門学校 高等課程

名古屋調理師専門学校

専修学校東洋調理技術学院

豊橋ファッション・ビジネス専門学校

大岡学園ファッション文化専門学校

(7) 連携校の学科構成

名古屋情報専門学校 高等課程	商業科
あいちビジネス専門学校 高等課程	普通科
西尾高等家政専門学校 高等課程	普通科
名古屋調理師専門学校	普通科
専修学校東洋調理技術学院	普通科
豊橋ファッション・ビジネス専門学校	普通科
大岡学園ファッション文化専門学校	普通科

(8) 生徒数（平成28年5月1日現在）

	単位制普通科		連携校普通科		連携校商業科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	29	15	129	76	210	27	486
2年生	51	27	123	59	190	32	482
3年生	67	45	114	85	175	20	506
計	147	87	366	220	575	79	1474

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育目標

本校通信制課程単位制は、転学希望生徒や高校中退生徒の再チャレンジの場として、また不登校気味中高生の成長の場として、高校卒業資格の取得を第一目標に指導しています。また、卒業後の進路指導についても力をいれている。

(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育指導方針

単位制の多くは、他の高等学校からの転入学生であり、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、家庭との連絡を密にして意欲と自覚を促し、単位取得と退学防止をはかる。また、わかりやすい学習指導、進路指導、悩み相談を行う。

Ⅲ 重点目標の達成及び改善方策

(1) 学習指導

重点目標
① 各科目の単位修得率を向上させる努力をする。
② 生徒の基礎学力向上に努める。
③ 試験による不正行為をなくす。
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。
⑤ 「よくわかる授業」の実践に心掛ける。
⑥ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用禁止、居眠り)
⑦ 授業の視聴覚教材を作成する。
⑧ 技能連携校スクーリングの新教材の作成と確認を行う。
⑨ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。
⑩ 総合学習(体験学習)を効果的に行っている。

(考察)

- ・学力差がある生徒たちに対して効果的な授業を先生方をお願いしていますが、授業内容の充実までには到達していない。しかし、以前よりは徐々に落ち着いた授業が多く、生徒の出席率も向上している。今後は少しでも満足できる授業に心掛けたい。連携校のスクーリングについては年間3日間ではありますが、毎年同じ内容ではなく教育効果が上がるような方法を考えていきたい。

【課題】

- ・学力差が大きいため、全員の生徒を理解させるための工夫をする。
- ・いろいろな生徒がいるが最低限の授業マナーを守らせる。
- ・技能連携校のスクーリングの生徒満足度を高める工夫をする。
- ・総合学習の内容を充実させ、進路に結びつけるようにする。
- ・不登校生徒に対する指導および声かけ、カウンセリングを行う。

【改善方策】

- ・レポートの作成の段階で基本的な内容を精選しできる限り生徒の学力が向上するように工夫する。
- ・視聴覚教材(パワーポイント、動画など)や実験を授業に取り入れ、わかりやすい授業に心がける。
- ・欠席・遅刻が多い生徒に対しては担任が家庭連絡を行い、保護者に周知し協力を願う。
- ・授業中のマナーについては現場で注意を与え、再三の注意指導については指導を行う。
- ・常に生徒の状況を確認し、一方的な授業にならないように心がける。
- ・不登校ぎみの生徒に対しては授業が受けやすいように配慮する。

(2) 生活指導

重点目標
① 登下校時のマナーはしっかりしている。
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。
③ 車両等による通学者は許可を得てマナーを守り通学している。
④ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。
⑤ 交通安全に対する意識を持つように指導している。
⑥ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。
⑦ 健康診断通知配布と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配布する。

(考察)

- ・本校は他校からの転学が多く、その中には生活面で問題があり転籍した生徒も在籍している。そのような生徒に対して校則を厳守するように約束させ入学して頂いている。校内についてはほとんど問題はないが、通学路や駅周辺においての喫煙等について少ない教員で巡視指導を行っているがまだまだ不十分である。

【課題】

- ・地域住民の方々に迷惑にならないようにマナー指導の徹底する。(駅、コンビニ 等)
- ・駅や学校周辺の通学路で喫煙行為があるので、その巡視と指導をする。
- ・成人の生徒も在籍するため交通安全指導を行う必要がある。
- ・本校の駐車場に自動車等の駐車許可を得ていない生徒の駅駐輪場や校舎周辺の私有地への無断駐車を取り締まる。

【改善方策】

- ・少ない教員で登下校指導を行い指導の強化をする。
- ・違反生徒には保護者来校をお願いをして指導する。また、再三の指導に従えない生徒は退学処分とする。
- ・ポスター、「メール発信システム」を利用して注意喚起を促す。
- ・健康診断を行い再検査が必要な生徒は保護者へ文書でお願いする。

(3) 進路指導

重点目標
① 進学率を高める努力をしている。
② 学校斡旋就職希望生徒の内定率の向上。
③ フリーター・ニート等による進路未決定者の減少を目指す。
④ 担任が自クラスの進路を把握する。
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推奨し、増加を目指す。
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。

(考察)

- ・昨年度より出口指導の強化を行ってきた。生徒の進路希望調査を進学就職の個別指導を行っている。まだまだ生徒の進路に対する意識は薄く、卒業させずればよいと考える生徒もいるが徐々に強化していきたい。

【課題】

- ・卒業のみを考えている生徒も多く、就職に対する意識が低い。また、アルバイトでもよいと考える生徒がいる。
- ・進路活動に入る時期が全日制生徒と比較するとかなり遅い。
- ・進学、就職希望があっても目標に対する努力をしない。
- ・担任が進路相談に慣れていない。
- ・就職に内定しても辞退する生徒がいると今後の企業との関係が悪くなる。

【改善方策】

- ・進学説明会、姉妹校説明会、就職説明会などに積極的に参加させる。
- ・体験学習などに積極的に参加させ、進路選択の幅をひろげる。
- ・愛産大単位取得コース（高大連携）を利用し内部進学率を高める。
- ・進路調査をもとに個人面談を実施する。
- ・就職・進学の合格率を高めるために模擬面接、小論文指導を行う。
- ・学校推薦で就職するときは必ず辞退しないように保護者にも説明する。

(4) 生徒相談

重点目標
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。
② 欠席過多の生徒や不登校気味の生徒への家庭連絡を適切に行う。 (家庭との連絡を密にする)
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。
④ 全日制スクールカウンセラーとの連携をとり実施している。

(考察)

- ・ 午後授業を開講し、不登校気味の生徒がかなり多く入学していただいている。先生方も声かけをしたり事前に情報をキャッチしカウンセリングを行っているが、まだまだ対応に慣れていない部分が多い。また、定期的に全日制のスクールカウンセラーを利用する生徒もいる。

【課題】

- ・ 午前授業の生徒と接触することなく午後授業を受講できるようにする。
- ・ 担任以外の相談できる教員が必要である。(全日制のスクールカウンセラー)
- ・ 家庭との連携を密にとり、生徒が出校できる環境をつくる。
- ・ 午後授業から午前授業にステップアップするように指導する。

【改善方策】

- ・ 兼任スクールカウンセラーではなく常駐していただけるスクールカウンセラーをお願いし、相談したいときに相談できる状態にする。
- ・ 声かけをして話す機会を多し、信頼を得るように担任はつとめる。
- ・ 不登校に関する講習会に積極的に参加して、そのような生徒の指導ができるように勉強に努める。

(5) 生徒募集

重点目標
① 年間目標入学者数を確保する努力をしている。
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。
④ 学校説明会参加人数が昨年を上回るよう努力する。
⑤ 退学者数を少なくする努力をしている。
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告する。
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。

(考察)

- ・ほとんどの重点目標で昨年度より上回る評価になっている。これは一昨年から始まった午後授業の開講や総合学習など生徒のニーズに適った改革の成果であると考え。ただこれに満足することなく本年度も新たな改革を進める必要がある。ただ退学者については不登校生徒の増加により若干増えたことは改善をするべきであると考えます。

【課題】

- ・新たな教育内容の改革を検討する。
- ・説明会の周知方法を検討する。
- ・校外の学校説明会への効果的な参加を検討する。
- ・本校の強みをどのようにアピールするかを検討する。
- ・退学者の減少させる方策を検討する。

【改善方策】

- ・業者による学校説明会に参加し、広域制単位制との違いをしっかりとアピールする。
- ・転入学元の学校に「学校説明会」開催情報を適宜流す。
- ・広域制単位制との違いを学校関係者に理解していただく冊子を作成する。
- ・教育課程を変更してより生徒の将来に役立つ内容にする。

(6) 総務

重点目標
① ホームページの更新は時宜を得て行う。
② ホームページの資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。
③ 学校の情報を「メール発信システム」で適切に提供する。
④ 学校説明会の案内を効果的に配布する。

(考察)

- ・重点目標の評価は若干減少してしまった。原因は公務等が多忙のためホームページの更新等がリアルタイムできなかった。転学希望生徒はやはりホームページが利用することが多いので充実していきたい。また、「メール発信システム」については登録数が徐々に多くなり利用頻度が増加している。

【課題】

- ・ホームページの常に新しい情報を掲載できるように努力する。
- ・ホームページのアクセス数の向上に努める。
- ・全日制の中学校ネットワークを利用して頂き広報活動をする。
- ・中学校高校訪問を効果的に行う方法を考える。

【改善方策】

- ・Google、yahoo の検索広告を利用してホームページアクセス数の向上をはかる。
- ・ホームページの内容（新しい情報の更新）を教員全員でリアルタイムに更新する。
- ・在籍する生徒の前籍高校へ、状況報告を含め訪問して募集につなげる。
- ・中学校へ訪問し、不登校ぎみな生徒に直接指導する。

(7) 校務

重点目標
① 校外における美化活動を行っている。
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」となるように努力し、意識の高揚を図る。
④ 日直を中心とした校内整備を行う。
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。

(考察)

- ・昨年度は内壁を塗り替え、計画的に修繕整備を行っていく予定であるが計画が遅れ気味である。また、時代に即した視聴覚機器の導入、ネット環境の整備も今後検討する必要がある。生徒数も増加して、省エネの推進もあまり伸びていない。

【課題】

- ・視聴覚器具の導入やネット環境の整備を行う多額予算が必要である。
- ・校内の破損箇所や機器の故障が多く、業者にお問い合わせする箇所も増加している。
- ・教員数が少ないため美化清掃や校内整備に時間が必要である。
- ・周辺の美化活動も必要であるが、毎日は活動できない。

【改善方策】

- ・生徒にゴミ等を出さないように飲食禁止を徹底させる。
- ・教室等の担当教員を決め、自クラスの美化活動、節電を実践する。
- ・予算取りをして年間計画で営繕を実施する。
- ・夏休み等を利用して、職員自ら修繕できることは行う。

(8) 事務関係

重点目標
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。
③ 電話等の対応を適切に行っている。
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。
⑤ 就学支援金事務作業を円滑に行う。

(考察)

- ・重点目標の教員評価は向上しているが、本校の事務は事務職員と教員により業務を行っている。単位制だけではなく技能連携校に関する事務作業があるので、多種多様な業務があり効率化することも難しい部分がある。また、指導要録等ほとんど手書きで行っていて非常に効率が悪い。早急に改善する必要性がある。

【課題】

- ・単位制だけでなく、技能連携校に関する事務作業を行う必要があり、業務の縮小は難しい。
- ・教務データの一元化とデータの汎用性の相関関係が容易ではない。
- ・生徒数1500名分のデータを管理するため、かなり煩雑になる。

【改善方策】

- ・連携校の事務と単位制の事務は別物であるので分けて行う。
- ・過去の卒業生データの電子化には膨大な時間がかかるため、現状のままで事務処理を行うしかない。
- ・現在のデータは早急に電算化をして事務処理の効率化を図る。
- ・事務局と教務でそれぞれ必要なデータの絞り出しを行い、一元化を進める。
- ・専任事務員を2名体制以上とする。

IV 本年度の具体的な取り組み

- ・愛産大単位取得コースの新設
- ・総合学習（体験学習）の充実（講座数の増加）
- ・出口指導の強化（進学指導・就職指導等）
- ・学校案内のリニューアル
- ・高体連加盟
- ・校外模試の申し込み
- ・臨時時間割導入（転入学生徒に対応）
- ・保護者懇談会の開催

本年度は上記の取り組みにより、入学生徒数の増加、内部進学率増加など、入学した生徒の満足度を高めるように努力をした。また、高体連加入により本校から硬式テニス、ボクシング競技の大会に参加、徐々に成績を上げている。

V 来年度の具体的な取り組み予定

- ・午後コースの授業時数の増加（8限目授業の実施）
- ・海外短期留学新設
- ・中学校復習講座の新設
- ・進学講座の新設

VI 重点目標の達成に対する考察

学習指導 生徒指導 進路指導 の項目はほぼ昨年度並みの評価であり現状に満足している様子があり今後はこれで満足するのではなく改善に努力していきたい。生徒相談の重点目標では教員により評価が0.2ポイント上昇しているが、保護者生徒の満足度が低いので改善方法に問題があるように感じるので今後検討していきたい。また、生徒募集については教員の評価も上がり、実際の生徒数も増加傾向にあるので今後も継続していきたい。

本校は連携校も含めると1500名の生徒の事務処理を行っているので、早急にシステム化をしミスのない処理をする必要がある。また、将来に向けて生徒に満足して頂ける教育内容をさらに充実することが本校が地域住民に望まれることであるので、さらに教育内容の充実をするように努力していきたい。

Ⅶ 生徒アンケート結果の総合考察

本年度は80名の生徒からアンケートを実施した。項目ごとの考察については集計結果をご覧ください。昨年度の結果と比較すると「落ち着いた雰囲気授業を受けている」の項目で満足度は上がっているなど各項目で現状維持か、少しずつではあるが伸びている状況である。ただ、午後授業の開講で不登校であった生徒が増加していることもあり、カウンセラーなどを必要にしている生徒も増加している状況である。今後はスクールカウンセラーの常駐していただくなど気楽に相談できる体制づくりをしていきたい。

Ⅷ 保護者アンケート結果の総合考察

本年度は89名の保護者からアンケートを実施した。ほとんどの項目については満足していただいているが、勉強や進学就職指導など卒業後頑張っていけるかどうかの不安があるようである。また、転学の生徒が多いこともあり新しい学校でいじめやトラブルがあり、また不登校になるかもしれないという気持ちがあるようです。新しく入学した生徒に対して担任はコミュニケーションをしっかりととり、まずは生徒の不安を取り除くことから始めたいと思います。また、外部カウンセラーの常駐も考え体制を整備したいと思います。

Ⅸ 今後の方向性

現在は不登校ぎみの生徒に対する午後コースを開講するなど入学する生徒に対する改革を行ってきました。今後は高校資格を得るだけでなく、将来のためになるような講座を開講し生徒に付加価値をつけて次にステージへ行かせたい。

開講例 中学校復習講座 進学講座 英会話・留学講座 電気工事士資格取得講座
情報処理資格取得講座 危険物取扱資格取得講座 公務員試験合格講座
メイク・ネイル講座など

X 学校関係者評価委員会報告書(全日制・通信制課程単位制合同)

〔学校関係者評価委員〕

後援会会長	清水 美之氏
後援会副会長	鈴木 基夫氏
保護者会相談役	鈴木 康史氏
市場町副総代	山路 康貴氏
西尾自動車学校校長	宇井 均氏

1 学校教育目標に対する意見

- ・三河高校の教育は、生徒指導・部活動・学習指導が柱である。一つの例として、朝、名鉄 藤川駅で清掃を行っている、部活動で登校する生徒に挨拶をしていただく。一人の行動が全体の評価に繋がる。多くの人が見ていると言う意識で指導を今後もしていただきたい。又、保護者も子供が三河高校に通っていると言う意識をもっていただけたら有り難い。
- ・三河高校の教育が現在の子供の生活の中に活かされている事を親として感じている。今後も、親・子供・地域が三河高校を認めつつ、いろいろな角度から見ていく必要がある。

2 教務に関する自己評価への評価・意見

- ・基礎学力は社会に出るに当たって非常に大切である。但し、勉強が出来てもコミュニケーション能力がなければだめである。「学力+人間関係+しつけ」が求められるので、バランスよく指導していただきたい。
- ・電気科や情報処理科は、資格取得だけでなく、物づくりを中心とした大会やコンテスト等 外に打って出るようなことが出来たら良い。(例：ロボット大会)

3 指導に関する自己評価への評価・意見

- ・部活動を中心とした藤川駅の清掃や挨拶・礼儀作法及びしつけ教育そして、地元のイベントや祭りへの協力など、定着してきたように思う。
- ・部活動で頑張りたい生徒に対して、喜ぶような部活が他にあるのではないか。
- ・部活動において、指導力やネームバリューのある人を連れてきて、生徒が目を輝かせて取り組むような体制が出来れば、もっと頑張れるのではないか。
- ・三河高校の三十年を考えると、指導面ではとても良くなった。(制服の着方、靴の履き方)
- ・近年スポーツ選手の不幸事が出ているが、本来なら親が教えるべき事を出来ない以上、学校の部活動でしつけ指導をしていくしかないのではないかと感じる。

4 進学指導に関する自己評価への評価・意見

- ・今後生徒が減少していく中で、普通科は進学校化で学力重視で取組まれているようであるが、それだけで生徒を絞って良いのだろうか。従来のようにいろいろな生徒に入学していただいて、その生徒の中で進学に力を注ぐ生徒がいれば、学校として最大限のサポートをしていただければ良い。部活でも進学でも子供がそれぞれに頑張れる環境を作ってもらいたい。

5 総務に関する自己評価への評価・意見

- ・子供が卒業すると学校に来る機会が少なくなるので、ホームページを通して活躍を目にする。

6 渉外に関する自己評価への評価・意見

- ・学力だけで生徒募集を行うと、短期間でその方向に変わるかと言うとそれは難しい。中学校の先生の今までの三河高校に対する意識や期待もある。

7 学年に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

8 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

9 その他（全般）意見

- ・今年一年学校評価委員に任命されたので、いろいろな所から情報を得ながら、意見を言わせていただきたい。
- ・中高一貫生は勉強中心だが、しっかりとした挨拶指導等をなぜ行わないのかと疑問に感じる。
- ・近年の高校生は、大人しくなっている。①即答できない。②物が言えない。③前に立って言わない。④集団や周りと一緒にするのが苦手など、内向き志向になってはいないか。どンドン外に出ていくような施策をしていただきたい。
- ・高校生にどうやってやる気を持たせるか。工夫や情熱パッション、創造性を養わせる教育を行う事がこれから大切である。それを実行に移せるのが部活動である。自分を生き生きと表に出せ、自分で工夫し考えられる指導を行っていただきたい。
- ・集団行動が出来る、又、コミュニケーション能力を身につけるような指導をしていただきたい。
- ・教員の指導体制が充実しており、このような指導で生徒を育てると言う事をアピールする事が大切である。
- ・子供がなぜ三河高校に行きたいかが根本である。「三河に行くとこれが出来る」等、三河の売りを前面に出しての魅力発信がもっと必要である。